

# 平成 28 年度 第 1 回香南市産業振興計画策定委員会

## — 議 事 録 (要旨) —

■日時：平成 28 年 6 月 30 日 (木) 10:00~12:00

■場所：香南市天然色劇場

■出席者

○策定委員会委員

受田委員長、野中副委員長、浜田委員、竹内委員、野島委員、山下委員、福井委員、佐藤委員、岡林（順）委員、山地委員、中内委員、田所委員、丸岡委員、岡林（八）委員、宮崎委員、亀井委員

○オブザーバー

企画財政課／田内課長、浜田係長

○事務局

農林課／村山課長、猪原補佐、中屋係長、伊野係長、小串主査  
商工水産課／小松課長、尾崎補佐、山中係長、近森主査

【次第】

1. 開会（進行：事務局）

2. 清藤市長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 委員自己紹介（出席委員 15 名及び事務局）

5. 委員長及び副委員長選任

委員長：受田浩之氏（高知大学地域連携推進センター センター長）

副委員長：野中明和氏（香南市副市長）

6. 議事（進行：受田委員長）

### 議事（1） 各分野における平成 27 年度の取組実績について

■事務局

農業分野→林業分野→水産業分野→商工業分野→観光分野→住宅分野の順に、平成 27 年度の実績について説明。

■委員

・林業分野で 2 つの取組で「遅れている」と評価しているが、遅れることでどんな問題が起こるのか。

→作業道が整備できないと道具等の運搬ができず間伐ができない。さらには、間伐できないことによって木の生育などに影響がでる。

■委員

・林業分野は、森林整備地域活動支援事業を柱として緊急間伐総合支援事業などを実施している。目的としては、水源の確保と多くの森林所有者の公益性を高めること。

■委員

・農業分野の農産物のブランド化の推進と加工品の開発について、具体的な取組を説明して

ほしい。

→産業振興推進総合支援事業としては、H22年頃に事業終了しており事業費は出ていない。しかし、農薬の安全利用及び生産履歴の徹底などによる品質向上や試食宣伝販売促進を市場で年数回実施している。現在も関係者が継続的に行っている。

#### ■委員

- ・補足として、メロンはハウス環境整備などを行い品質向上している。夜須のエメラルドメロンは日本一だと自負している。生産金額は、毎年4～5億円は必ずクリアできる。ニラについては、農家数は減少しているが設備投資を行い、生産性を維持している。また、香南市観光協会と提携して、香南ニラ塩焼きそばなどでニラの販売促進をしている。

#### ■委員長

- ・産業振興計画は行政主導で数値目標などを決めていたが、各部会が発足することで現地でプレイヤーとなる人がイメージできるようになってきている。当然行政がお金を入れて推進しているが、さらに部会を中心に主体的に取り組んでいくようにする。具体的な取組とあるものが具体性に乏しいので、そこを補完しながら可視化できるようにしなければならない。

#### ■委員

- ・事業計画は昨年の計画を少し変えているだけで、問題解決しなければいけないことが反映されていない。行政だけでなく委員会とも密接に関係を持ち計画策定、推進していかないと意味がないものになってしまう。

#### ■委員長

- ・部会発足で行政と各団体が一体感をもって常に様々な議論をし、よりよい方向に導いていくことができるようなフレームワークができつつある。今後もっとPDCAサイクルを回し議論を深めていく。

#### ■委員

- ・獣害はただ減らすだけでなく、観光商材としてジビエ料理をPRし盛り上げたい。しかし、各部会間の結びつきが弱いと商材として活かすことができない。今後どのように各部会が結びつき連携していくか検討が必要。

#### ■委員長

- ・この策定委員会は各部長が集まり議論が横断的にできる。また、各部会が結びつく機能を担っている。

#### ■委員

- ・商工会でポイント事業を進めていたが、国の認定がおりず前に進まないような状況になっている。しかし、他の方法がないのかなど議論はしている。以前作成した香南市のガイドブックを市の補助金を使い作成したい。空き家対策として、若者と高齢者が集え交流ができるコミュニティの場として活用したい。

#### ■委員長

- ・部会で新たなテーマ・アイデアが出てきているので、産官学金労言が当事者意識をもち、どんどん前向きに議論していけばいい方向に行くのではないかと。どれぐらいのペースで部会が開催できるのかが重要なポイントになるのではないかと。

#### ■委員

- ・ものづくりを推進するために人材育成が必要だと考え、未来人材育成奨学金支援事業と産業人材育成事業を策定してもらった。今後、制度内容をさらにブラッシュアップしていく。

#### ■委員

- ・高知新港に寄港するクルーズ船の乗客に対して、どのようにして香南市の観光や食をPRしていくのか検討していかないといけない。また、外国人観光客の受入体制を整えるために、パンフレットの多言語化などを行っていく。

### 議事（２） 平成 28 年度の取組について

#### ■事務局

農業分野→林業分野→水産業分野→商工業分野→観光分野→住宅分野の順に、平成 28 年度の計画について説明。

#### ■委員

- ・農業部会からの意見ではないが、香南市農業公社の規模を拡大して若い人を採用し経験をつませて独立させるようにしてはどうか。また、人口増加する方法として、今農学部が人気で女性の進学も増えているので農業者人口を増やせばいいのではないかと呼べるしお金を使っても損はないと考えている。

#### ■委員長

- ・移住促進や雇用創出につながり、より各部会の連携が重要になる。

#### ■委員

- ・森林境界の明確化は、過疎化や高齢化によって境界がわからなくなり集約化作業や間伐作業に支障をきたすため行う。明確にすることによって森林資源を活用した所得向上や雇用創出につながる。

#### ■委員

- ・この計画はよくできている。でも、いつも思っていたが、部会で意見を言ってくれる人が 1、2 人しかいない。他の人は黙っているだけで意見を求めても発言してくれないので本音がわからない。なので、部会の活性化を図りたい。専門家ばかりでいいのか部会自体のあり方をもう一度考えたい。

#### ■委員長

- ・大事なのは現場の声。構成メンバーを検討し多くの方と議論ができるようにする。

#### ■委員

- ・コミュニティガイドブックの事業をもっと早く実施してもらいたい。ポイントカード事業は買い物だけのポイントではなく、ボランティアや検診受診でポイント付与できるようにとか様々な活用方法、運用方法を検討している。今後も実施するために取り組んでいきたい。ポリテクカレッジ、高知大、高知工科大の学生の力も借りたい。

#### ■委員長

- ・ポイント事業は広範囲に及ぶポイントになる。利用できる補助事業などがなければ、自分たちで作っていくように議論していくべきである。

#### ■委員

- ・制度的にできないのであれば、国や支援機関に我々がやりたいことを強く訴えていかないといけない。また、既存の制度内容の変更なども行える可能性はあるので、自分たちから可能性を探っていくといけない。

#### ■委員

- ・できるだけ学生に地域に出て行ってもらいたいが、工科大は高知大のように体制が整っていない。学生が地域に住んでいるだけでも地域貢献になっていると思う。今日の議論を聞いていて、やはり行政がつくったものだなと感じた。各部会間のつながり、ネットワークが弱い。

#### ■委員

- ・産業人材育成事業は、ポリテクカレッジのセミナーをうまく活用してもらい、産学連携の1つになるのではないかと期待している。工場ができれば雇用促進にもつながるし、工場があることでステイクホルダーの方が香南市に訪れ地域経済活性化にもなる。企業誘致だけで終わるのではなく、企業育成にも力をいれてもらいたい。

#### ■委員長

- ・新聞の記事にもあったが今後、人材不足になることがますます増えていくことが予想される。今いる人材をいかにして育て市外に出て行かないようするのか、全体でつないでいかないといけない。この問題は全産業共通の課題である。

#### ■委員

- ・歴史を中心とした博覧会では絵金蔵とアクトランドを拠点地として、まだ観光地化されていない歴史資源を掘り起こし周遊コースをつくる。これにともなって、宿泊・飲食施設を絡めて観光クラスターをつくりだし地域にお金が落ちる仕組みをつくる。観光入込数を100万人は既に達成しているので、目標数値の変更を検討する。物部川流域観光は、南国市・香南市・香美市というスケールメリットを活かしてプロジェクトを進めていく。観光施設連絡会以外にも宿泊施設との交流会や情報交換できる場を増やしていく必要がある。

#### ■委員長

- ・100万人を達成しているならば、上方修正しどうやって達成していくのか検討する必要がある。また、観光協会の役割が今よりも重要になり多面的になっていく。34市町村全域での観光振興も必要になってくる。

#### ■委員

- ・歴史博については、今までの観光施設連絡会以上に幅を広げ、多くの意見をもらい議論していかないといけない。ニラについては、平成22年にニラプロジェクトを始め、食でまちおこしを目指した。その1つの成果が香南市ニラ塩焼きそば。他にもニラプリン、ケーキがある。また、JAのニラ部会と締結してニラ体験ツアーが本格的に始動した。PRに関しては関西国際空港で開催されている「ナンバーワンフェスタ」に参加している。こういった活動が部会には報告されていないので問題だと思う。

#### ■委員長

- ・高知大でニラを研究しており、ピロリ菌を殺菌する作用が発見され論文で世界に発信されている。なので、ポイントカード事業と絡めてニラを食べて、ポイントを貯めて、健康増進を図る。そういった事業を地域発として発信していく。大豊町の基石茶のように新型交

付金を利用し、香南市としてニラへの思いをプロモーションしていく。

■委員

- ・考えているアイデアを発信し議論できる場ができたのはよかった。観光協会のほうに地引網の問い合わせが年に何回もある。後継者問題等もありこういった全体の会で取組んでほしい。

■委員

- ・地引網の需要は夏場が多い。熱をもった砂で魚が焼けるので鮮度がよくない。春か秋に需要が増えたらいいが。

■委員

- ・地引網用の場所を作り、そこに熱伝導の低い物を置くのはできるかも知れない。

■委員長

- ・ニーズが明確なので力を合わせてどうやれば問題解決できるのか考えていかないといけない。

■委員

- ・獣害対策について、ジビエ料理に加工できる加工場がないので何かあればいい。林業は、木だけに焦点をあてるのではなく土壌にも目を向けるべき。シラスに関しては、冷凍施設がないから長期保存ができない。あじさい街道については、青少年センターのトイレを利用しようとしたら、営利目的の利用は許可できないときつく断られた。今後もあじさい街道を続けていくにはもっと周知、協力が必要。

■委員

- ・冷蔵庫はランニングコストやどこが管理するのかなど問題が多い。計画しては途中で中止するということが続いている。

■委員長

- ・宗田がつおを例にすると、冷凍施設の問題などがあつたが解決して成功している。シラスに関する問題も、この会ででた意見をきっかけにして考えていけば次に続いていくかも知れない。

■委員

- ・青少年センターに関しては、関係機関と連携して取組む。県の産業振興計画も3期目に入ったが、今後は地産外商に加え拡大再生産も図っていく。1次産業を軸にした産業クラスターの形成、強化し生産者・加工者・販売者などの連携をしていき多様な雇用を創出していく。そういった視点も持ち議論していってもらいたい。

■委員長

- ・県のアクションプラン等を参考に、それぞれの主体が明確に可視化すれば関係機関との連携がとりやすくなる。PDCAを回す際に課題の具体性が欠けている部分がある。その部分を精緻に解析しなければ解決の手段、ステップが見えなくなる。今後各部会の活動が実質化していくように部会長を中心に様々な人を巻き込みながら頻繁に部会を開催していってもらいたい。

■閉会

- ・次回の開催は、10月頃を予定。